



インストール

- [VMware vSphere 上の Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール \(1 ページ\)](#)
- [Microsoft Hyper-V Server 上の Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール \(6 ページ\)](#)
- [KVM ハイパーバイザでの Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール \(10 ページ\)](#)

VMware vSphere 上の Cisco Intersight 仮想アプライアンス および Intersight Assist のインストール

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、オープン仮想アプライアンス (OVA) ファイル形式、ZIP ファイル形式、または TAR ファイル形式で含まれている展開可能な仮想マシンとして配布されます。Cisco Intersight 仮想アプライアンスは VMware ハイアベイラビリティ (VMHA) をサポートしており、仮想アプライアンスの動作が中断しないことを保証します。VMHA の詳細については、vmware.com のマニュアルを参照してください。



注目 Intersight 仮想アプライアンスと Intersight Assist OVA は、VMware vCenter を使用して展開する必要があります。OVA を ESXi サーバーに直接展開することはできません。

デフォルトでは、VMware vCenter には、Intersight 仮想アプライアンス OVA ファイルの Cisco デジタル署名を検証する認証局 (CA) が含まれていません。VMware vCenter GUI に、OVA の証明書が無効であり、信頼されていないことが示されます。可能ですが、この警告を無視せずにインストールを続行することをお勧めします。代わりに、次の表から、Intersight 仮想アプライアンス OVA ファイルのデジタル署名を検証する適切なルート CA をダウンロードしてインストールします。署名を検証することで、OVA が Cisco によって発行され、サードパーティによって変更されていないことが保証されます。

次の表に示すルート CA 証明書は、[Cisco の PKI ページ](#)で入手できます。

OVA バージョン	CA 発行者	CA シリアル番号	CA の有効期限	OVA バージョン
1.0.9-630	TrustID EV コード署名 CA 4	4070004008848783	2030 年 3 月 18 日	1.0.9-630
1.0.9-588	DigiCert 信頼済み G4 コード署名 2021 CA1	0a1b202e95c4b1b2a9		1.0.9-588
1.0.9-499	なし	なし	なし	1.0.9-499
1.0.9-342	DigiCert 信頼済み G4 コード署名 2021 CA1	0a1b202e95c4b1b2a9	2030 年 3 月 18 日	1.0.9-342
OVA バージョン	CA 発行者	CA シリアル番号	CA の有効期限	OVA バージョン

次のタスクの手順を使用して、VMware vSphere にアプライアンスをインストールして、展開します。**VMware vSphere にマルチノード Intersight 仮想アプライアンスをインストールして展開するには、次のタスクの手順を 3 回繰り返します。**

始める前に

シスコの担当者が提供した URL または、ローカルハードドライブ、ネットワーク共有ドライブまたは CD/DVD ドライブなど、セットアップからアクセス可能な場所から、Cisco Intersight 仮想アプライアンス パッケージをダウンロードしたことを確認します。



注目

- Intersight Virtual Appliance をインストールしてセットアップする前に、[\[システム要件 \(System Requirements\)\]](#) セクションに記載されている情報を読むことを強くお勧めします。
- シングルノード Intersight 仮想アプライアンスをセットアップするには、IP アドレス 1 つと、その IP アドレスの DNS レコードが 2 つ必要です。IP アドレスとホスト名の要件の詳細については、[\[IP アドレスとホスト名要件 \(IP Address and Hostname Requirements\)\]](#) を参照してください。
- Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタの設定は、3 つのホスト名、3 つの IP アドレスとそれぞれのホスト名に対して 1 つの DC-CNAME が必要です。IP アドレスとホスト名の要件の詳細については、[\[IP アドレスとホスト名要件 \(IP Address and Hostname Requirements\)\]](#) を参照してください。
- Web ユーザー インターフェイスを介してアプライアンスにアクセスするには、HTTPS プロトコルと完全修飾ドメイン名のみを使用します。

- ステップ 1** 管理者クレデンシャルを使用して VMware vSphere Web クライアントにログインします。
- ステップ 2** ホストを右クリックして **[OVF テンプレートの展開 (Deploy OVF Template)]** を選択します。
- ステップ 3** **[OVF テンプレートの展開 (Deploy OVF Template)]** ウィザードの **[テンプレートの選択 (Select Template)]** ページで、送信元の場所を指定し、**[次へ (Next)]** をクリックします。URL を指定するか、またはローカルハードドライブ、ネットワーク共有、または DVD/CD ドライブからアクセス可能な場所を参照することができます。
- ステップ 4** **[OVF テンプレートの詳細 (OVF Template Details)]** ページで、OVF テンプレートの詳細を確認して **[次へ (Next)]** をクリックします。入力する必要はありません。
- ステップ 5** **[名前とロケーションの選択 (Select a name and location)]** ページで、仮想アプライアンスの **[名前 (Name)]** と **[場所 (Location)]** を追加/編集し、**[次へ (Next)]** をクリックします。
- ステップ 6** **[リソースの選択 (Select a resource)]** ページで、特定のホスト (ESX station)、クラスタ、リソース プール、または展開する仮想アプライアンスを選択して、**[次へ (Next)]** をクリックします。
- 各 VM は、vSphere HA または手動モードの vSphere DRS で構成されているクラスタの特定のホストに割り当てする必要があります。
- ステップ 7** **[詳細の確認 (Review details)]** ページで OVA テンプレートの詳細を確認し、**[次へ (Next)]** をクリックします。
- ステップ 8** **[設定 (Configuration)]** ページで **[設定の導入 (Custom)]** を、選択して **[次へ (Next)]** をクリックします。
- ステップ 9** **[ストレージの選択 (Select storage)]** ページで、選択したホスト (ESX ステーション) 内の VM ファイルに宛先ストレージ (ハードドライブ) を選択し、**[次へ (Next)]** をクリックします。仮想マシンの仮想ディスクにディスク形式を選択します。シンプロビジョニングを選択してディスク使用率を最適化します。

- ステップ 10** [ネットワークの選択 (Select networks)] ページで、OVF テンプレートに指定されている各ネットワークに対して送信元ネットワークを選択し、それを宛先ネットワークにマップして **[次へ (Next)]** をクリックします。
- ステップ 11** [テンプレートのカスタマイズ (Customize Template)] ページで、OVF テンプレートの展開プロパティをカスタマイズし、**[次へ (Next)]** をクリックします。

OVF プロパティ	説明
[DHCP を有効にする (シングルノードアプライアンスの場合のみ) (Enable DHCP (only for single-node appliance))]	静的 IP アドレスを使用しないように、アプライアンスが同じネットワーク上で実行されている DHCP サーバーから IP アドレスを取得できるようにします。このオプションを選択すると、すべての静的パラメータが無視されます。DHCPの詳細については、この表の後の [DHCP の有効化 (Enabling DHCP)] の項を参照してください。
[IP アドレス (IP Address)] (DHCP を有効にすると、入力した値は無視されます)	ノードの IPv4 アドレスを入力します。例 : 10.0.0.100
[ネット マスク (Net Mask)] (DHCP を有効にすると、入力した値は無視されます)	このフィールドには IPv4 ネットマスク 255.255.255.0 が事前に入力されています。
[デフォルト ゲートウェイ (Default Gateway)] (DHCP を有効にすると、入力した値は無視されます)	IPv4 のデフォルトゲートウェイを入力します。例 : 10.0.1.254
[DNS ドメイン (DNS Domain)] (DHCP を有効にすると、入力した値は無視されます)	DNS 検索ドメインを入力します。
[DNS サーバ (DNS Servers)] (DHCP を有効にすると、入力した値は無視されます)	DNS サーバーのカンマ区切りの IPv4 アドレスのリストを入力します。最大 2 つの DNS サーバーがサポートされます。
[Admin Password]	admin パスワードを入力します。これは、アプライアンスへのログインに使用するパスワードと同じです。 [パスワードの設定 (Set Password)] : Intersight にアプライアンスを登録する前に、管理者パスワードを作成する必要があります。パスワードには、0～9、A～Z、a～z と、コロン (:) およびスペースを除くすべての特殊文字を含めることができます。
[NTP Servers]	NTP サーバーのカンマ区切りの IPv4 アドレスのリストを入力します。NTP サーバーは最大 3 つまで追加できます。DHCP を使用して IP アドレスを取得する場合でも、この設定は必須です。

OVF プロパティ	説明
Disk Size	[重要: (Attention:)] ディスクサイズの値は、展開構成に基づいて計算されるため、変更しないでください。

注目 アプライアンス登録時に設定したパスワードが脆弱である場合、Interswitch はパスワードをより強力なものに変更するように要求します。強力なパスワードに正常にリセットされると、アプライアンスに直接ログインします。ログ方法の詳細については、[Intersight 仮想アプライアンスにログイン](#) を参照してください。

DHCP のイネーブル化

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用すると、Cisco Intersight 仮想アプライアンス VM は、インストールされているネットワーク上で実行されている DHCP サーバーを介して、IP アドレスを取得できます。このオプションが有効になっている場合、Cisco Intersight 仮想アプライアンスはリース要件に従って、DHCP を介して IP アドレスの更新を処理するように設定されています。

注目 **DHCP は マルチノード Intersight 仮想アプライアンスではサポートされていません。**
シングルノード アプライアンスのため、DHCP の使用するために次の要件が満たされていることを確認します：

- DHCP を使用する場合は、アプライアンス VM に返された IP アドレスが、アプライアンスの設定に使用すると同じ **FQDN** に対して解決されることを確認します。Cisco では、アプライアンス VM に対して同じ IP アドレスを返すように DHCP を設定し、IP アドレスを頻繁に変更しないことを推奨しています。
- アプライアンスは、DHCP リース情報から IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、および DNS サーバーのみを読み取ります。NTP 情報 (存在する場合) は、展開時に OVF パラメータに入力する必要があります。
- アプライアンス VM で使用されるすべての IP アドレスは、割り当てられた初期 IP アドレスと同じサブネット内にある必要があります。たとえば、別の DHCP サーバーを持つ vSwitch に接続して、VM に異なるサブネットからの IP を割り当てることはできません。

制限事項

- 強制リースの更新は、VM の設定に影響を与える可能性があり、アプライアンスを使用できなくなる可能性があります。

ステップ 12 [準備完了 (Ready to Complete)] ページで [展開後に電源をオン (Power On After Deployment)] を選択し、[終了 (Finish)] をクリックします。

アプライアンスの設定を完了する方法については、「[Intersight 仮想アプライアンスの設定](#)」を参照してください。

トラブルシューティング ヒント：OVF パラメータを指定した後、電源をオンにしてから約 15 分後に `<https://fqdn-of-your-appliance>` にアクセスしたときに VM が応答しないことに気づいた場合は、Intersight アプライアンス メンテナンス シェルを使用して、ネットワーキングまたは設定不備の問題をトラブルシューティングすることができます。

トラブルシューティング ヒント: diag シェルに **192:** などのホスト名が表示される場合は、アプライアンスの展開中に、1 つ以上のネットワーク パラメーター（IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、ドメイン ネーム システム（DNS）サーバーなど）の入力が間違っていて入力しました。アプライアンス VM が、ネットワークへの接続と DNS ルックアップの実行を許可しないポートグループ/vswitch に接続されている可能性もあります。この問題が発生した場合は、OVA への入力と他のネットワーク パラメータを確認してください。誤った入力は、diag シェルを使用して修正できます。

診断ツールの目的は次のとおりです。

- インストールの前提条件に関する問題を検出して表示します。
- OVA の展開時に提供される入力の編集を有効にします。
- 設定を修正した後、または OVA の導入時に IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどのネットワークインターフェイスのプロパティを設定した後、インストールを続行できるようにします。

詳細については、[Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のメンテナンスシェル](#)を参照してください。

Intersight 仮想アプライアンス インストールおよびトラブルシューティングのデモンストレーションについては、『[Cisco Intersight アプライアンスおよびデバッグ](#)』をご確認ください。

Microsoft Hyper-V Server 上の Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、オープン仮想アプライアンス（OVA）ファイル形式、ZIP ファイル形式、または TAR ファイル形式で含まれている展開可能な仮想マシンとして配布されます。ZIP ファイル形式を使用して Microsoft Hyper-V サーバーにアプライアンスをインストールします。Microsoft Hyper-V サーバーの詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。



- (注) 次のタスクの中の手順を使用して、アプライアンスを Hyper-V Server Manager にインストールして展開します。

始める前に

シスコの担当者が提供した URL または、ローカルハードドライブ、ネットワーク共有ドライブまたは CD/DVD ドライブなど、セットアップからアクセス可能な場所から、Cisco Intersight 仮想アプライアンス パッケージをダウンロードしたことを確認します。



注目

- Intersight Virtual Appliance をインストールしてセットアップする前に、[\[システム要件 \(System Requirements\)\]](#) セクションに記載されている情報を読むことを強くお勧めします。
- シングルノード Intersight 仮想アプライアンスをセットアップするには、IP アドレス 1 つと、その IP アドレスの DNS レコードが 2 つ必要です。IP アドレスとホスト名の要件の詳細については、[\[IP アドレスとホスト名要件 \(IP Address and Hostname Requirements\)\]](#) を参照してください。
- Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタのセットアップは、Microsoft Hyper-V ではサポートされていません。
- Web ユーザー インターフェイスを介してアプライアンスにアクセスするには、HTTPS プロトコルと完全修飾ドメイン名のみを使用します。

ステップ 1 管理者のクレデンシャルを使用して Hyper-V Server Manager にログインし、アプライアンスをインストールするサーバーを選択します。

ステップ 2 **[アクション (Actions)]** ペインで、**[仮想マシンのインポート (Import Virtual Machine)]** を選択し、**[次へ (Next)]** をクリックします。

- a) **onprem_vms** など、抽出した仮想マシンを含むフォルダを選択し、**[次へ (Next)]** をクリックします。
- b) インポートする仮想マシンを選択して、**[次へ > (Next >)]** をクリックします。
- c) **[インポート タイプの選択 (Choose Import Type)]** 画面で、**[仮想マシンのコピー (新しい固有 ID の作成) (Copy the virtual machine (create a new unique ID))]** オプションを選択し、**[次へ (Next)]** をクリックします。
- d) **[宛先の選択 (Choose Destination)]** 画面で選択を行い、**[次へ (Next)]** をクリックします。
- e) **[ストレージ フォルダの選択 (Choose Storage Folders)]** 画面で選択を行い、**[次へ (Next)]** をクリックします。
- f) **[サマリ (Summary)]** 画面で選択内容を確認し、**[完了 (Finish)]** をクリックします。

インポートが完了すると、インポートされた仮想マシンが Hyper-V Manager に表示されます。

ステップ 3 移行元の仮想マシン上で右クリックし、**[設定 (Settings)]** を選択します。

- a) **[ネットワーク アダプタ (Network Adapter)]** に移動し、ドロップダウン リストから仮想スイッチを選択します。
- b) **[適用 (Apply)]** をクリックします。

ステップ 4 **[アクション (Actions)]** ペインで、**[スタート (Start)]** を選択して仮想マシンの電源をオンにします。

ステップ 5 **[アクション (Actions)]** ペインで、**[接続 (Connect)]** を選択して仮想マシンに接続します。

仮想マシン接続コンソールが表示されます。

ステップ 6 仮想マシン接続コンソールで、パスワード設定と IP プロパティをカスタマイズします。

プロパティ	説明
ユーザー管理者のパスワードを設定 (Set password for user admin)	管理者ユーザーの新しいパスワードを設定します。 (注) アプライアンスへのログインに同じパスワードを使用するため、このパスワードを忘れないようにしてください。
IP 割り当てを選択 (Choose IP Assignment)	スタティック IP 割り当ての場合は S 、DHCP の場合は D を入力します。 IP あり当てに DHCP を選択することで、静的 IP アドレスを使用しないように、アプライアンスが同じネットワーク上で実行されている DHCP サーバーから IP アドレスを取得できるようにします。
IP アドレス (IP Address)	ノードの IP アドレスを入力します。例: 10.0.0.100
サブネット マスク (Subnet Mask)	IP ネット マスクを入力します。255.255.255.0 などです。
デフォルト ゲートウェイ (Default Gateway)	IP のデフォルト ゲートウェイを入力します。例: 10.0.1.254
DNS サーバ (DNS Servers)	DNS サーバーのカンマ区切りの IP アドレスのリストを入力します。最大 2 つの DNS サーバーがサポートされます。
ドメイン (DNS Domain)	DNS 検索ドメインを入力します。
NTP サーバ (NTP Servers)	スタティック IP を設定するときに NTP 情報を入力します。 NTP サーバーのカンマ区切りの IP アドレスのリストを入力します。最大 3 台の NTP サーバーを追加できます。 IP 割り当てに選択した DHCP を設定した場合は、NTP 情報を提供できません。

注目 アプライアンス登録時に設定したパスワードが脆弱である場合、Interswitch はパスワードをより強力なものに変更するように要求します。強力なパスワードに正常にリセットされると、アプライアンスに直接ログインします。ログ方法の詳細については、[Intersight 仮想アプライアンスにログイン](#) を参照してください。

DHCP のイネーブル化

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用すると、Cisco Intersight 仮想アプライアンス VM は、インストールされているネットワーク上で実行されている DHCP サーバーを介して、IP アドレスを取得できます。このオプションが有効になっている場合、Cisco Intersight 仮想アプライアンスはリース要件に従って、DHCP を介して IP アドレスの更新を処理するように設定されています。

注目 シングルノードアプライアンスのため、DHCP の使用するために次の要件が満たされていることを確認します：

- DHCP を使用する場合は、アプライアンス VM に返された IP アドレスが、アプライアンスの設定に使用するのと同じ **FQDN** に対して解決されることを確認します。Cisco では、アプライアンス VM に対して同じ IP アドレスを返すように DHCP を設定し、IP アドレスを頻繁に変更しないことを推奨しています。
- アプライアンスは、DHCP リース情報から IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、および DNS サーバーのみを読み取ります。静的 IP を設定する場合は、Hyper-V Server の NTP 情報を仮想マシン接続コンソールに入力する必要があります。
- アプライアンス VM で使用されるすべての IP アドレスは、割り当てられた初期 IP アドレスと同じサブネット内にある必要があります。たとえば、別の DHCP サーバーを持つ vSwitch に接続して、VM に異なるサブネットからの IP を割り当てることはできません。

制限事項

- 強制リースの更新は、VM の設定に影響を与える可能性があり、アプライアンスを使用できなくなる可能性があります。

ステップ 1 <<https://fqdn-of-your-appliance>> に進み、アプライアンスのインストール後のセットアップを完了します。

アプライアンスの設定を完了する方法については、「[Intersight 仮想アプライアンスの設定](#)」を参照してください。

トラブルシューティング ヒント：パスワードおよび IP プロパティ パラメータを指定した後、約 15 分後に <<https://fqdn-of-your-appliance>> にアクセスしたときに VM が応答しないことに気づいた場合は、Intersight アプライアンス メンテナンス シェルを使用して、ネットワークングまたは設定ミスの問題をトラブルシューティングすることができます。

診断ツールの目的は次のとおりです。

- インストールの前提条件に関する問題を検出して表示します。
- OVA の展開時に提供される入力の実行を有効にします。
- 設定を修正した後、または OVA の導入時に IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどのネットワークインターフェイスのプロパティを設定した後、インストールを続行できるようにします。

詳細については、[Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のメンテナンスシェル](#)を参照してください。

Intersight 仮想アプライアンス インストールおよびトラブルシューティングのデモンストレーションについては、『[Cisco Intersight アプライアンスおよびデバッグ](#)』をご確認ください。

KVM ハイパーバイザでの Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、オープン仮想アプライアンス（OVA）ファイル形式、ZIP ファイル形式、または TAR ファイル形式で含まれている展開可能な仮想マシンとして配布されます。TAR ファイル形式を使用して KVM ハイパーバイザにアプライアンスをインストールします。次の手順は、Virtual Machine Manager（VMM）を使用して KVM ハイパーバイザにアプライアンスをインストールして展開する方法を示しています。



(注) ソフトウェア要件：

- KVM ハイパーバイザをサポートする Linux オペレーティング システム、または KVM ハイパーバイザで事前設定された Linux オペレーティング システム。CentOS 7.9 では、KVM ハイパーバイザの最小サポートバージョンは 1.5.3 です。
- VM へのネットワーク接続を提供する仮想ネットワークブリッジ。



(注) Virtual Machine Manager（VMM）を使用して KVM ハイパーバイザにアプライアンスをインストールして展開するために次のタスクの中の手順を使用します。

始める前に

シスコの担当者が提供した URL または、ローカルハードドライブ、ネットワーク共有ドライブまたは CD/DVD ドライブなど、セットアップからアクセス可能な場所から、Cisco Intersight 仮想アプライアンス パッケージをダウンロードしたことを確認します。



注目

- Intersight Virtual Appliance をインストールしてセットアップする前に、[\[システム要件 \(System Requirements\)\]](#) セクションに記載されている情報を読むことを強くお勧めします。
- シングルノード Intersight 仮想アプライアンスをセットアップするには、IP アドレス 1 つと、その IP アドレスの DNS レコードが 2 つ必要です。IP アドレスとホスト名の要件の詳細については、[\[IP アドレスとホスト名要件 \(IP Address and Hostname Requirements\)\]](#) を参照してください。
- Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタのセットアップは、KVM ハイパーバイザではサポートされていません。
- Web ユーザー インターフェイスを介してアプライアンスにアクセスするには、HTTPS プロトコルと完全修飾ドメイン名のみを使用します。

- ステップ 1 Virtual Machine Manager (VMM) クライアントを起動します。
- ステップ 2 新しい仮想マシンを KVM ハイパーバイザにインストールするには、メニューバーで **[ファイル (File)]** > **[新規仮想マシン (New Virtual Machine)]** を選択します。
- [新規 VM (New VM)]** ダイアログ ボックスが表示され、**[新規 VM (New VM)]** インストールのステップ 1/4 が表示されます。
- ステップ 3 **[オペレーティング システムをインストールする方法を選択する (Choose how you want to install the operating system)]** で、**[既存のディスク イメージのインポート (Import existing disk image)]** を選択し、**[転送 (Forward)]** をクリックします。
- ステップ 2/4 が表示されます。
- ステップ 4 **[既存のストレージ パスを指定する (Provide the existing storage path)]** で、**[参照 (Browse)]** をクリックします。
- ステップ 5 **[ストレージ ボリュームの選択 (Choose storage volume)]** で、ディレクトリを参照して、システムで抽出した Intersight 仮想アプライアンス イメージファイルの最初のディスク (*intersight-appliance-1.0.9-180-1.qcow2* など) を選択します。
- a) **[詳細 (Advanced)]** オプションで、**[VirtIO]** を選択します。
- (注) VirtIO は、KVM ハイパーバイザに Intersight 仮想アプライアンスと Intersight Assist をインストールする際にサポートされるストレージ用の唯一のディスク バスです。
- ステップ 6 **[オペレーティング システム タイプおよびバージョンの選択 (Choose an operating system type and version)]** で、**[OS タイプ (OS type)]** に **[Linux]**、**[バージョン (Version)]** に **[CentOS 7.0]** を選択し、**[転送 (Forward)]** をクリックします。
- ステップ 3/4 が表示されます。

ステップ 7 [メモリと CPU 設定の選択 (Choose Memory and CPU settings)] で、次の手順を実行し、[転送 (Forward)] をクリックします。

- [メモリ (RAM) (Memory (RAM))] に 32768 を選択または入力します。
- CPU を 16 に設定

ステップ 4/4 が表示されます。

アプライアンスの展開サイズの詳細については、[Intersight 仮想アプライアンスでサポートされる構成の制限](#) を参照してください。

ステップ 8 ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

- [インストールを開始する準備 (Ready to start the installation)] の [名前 (Name)] フィールドに、Intersight Virtual Appliance ソフトウェアの名前を入力します。例: *intersight-appliance-1.0.9-180*
- [インストール前に設定をカスタマイズする (Customize configuration before install)] オプションが選択されていることを確認します。
- [ネットワーク選択 (Network selection)] で、適切な仮想ネットワークブリッジを選択していることを確認します。

ステップ 9 [終了 (Finish)] をクリックします。

これで、Intersight 仮想アプライアンス イメージの最初のディスクを追加するプロセスが完了しました。インストール プロセスを開始する前に、ディスク 2〜8 を 1 つずつ追加する必要があります。

ステップ 10 VMM コンソールで、次の設定を行います。

- 左側のナビゲーションパネルの下部にある [ハードウェアの追加 (Add Hardware)] をクリックします。
- [ストレージ (Storage)] で、[カスタムストレージの選択または作成 (Select or create custom storage)] が選択されていることを確認します。
- ディレクトリを参照して、システムで抽出した Intersight 仮想アプライアンス イメージ ファイルの 2 番目のディスク (*intersight-appliance-1.0.9-180-2.qcow2* など) を見つけて選択し、[ボリュームの選択 (Choose volume)] をクリックします。
- [終了 (Finish)] をクリックします。

ディスク 3〜ディスク 8 を追加するまで、この手順を繰り返します。8 つのディスクすべてが左側のナビゲーション パネルに表示されていることを確認します。

ステップ 11 [インストールの開始 (Begin Installation)] をクリックします。

ステップ 12 VMM コンソールで、パスワード設定と IP プロパティをカスタマイズします。

プロパティ	説明
ユーザー管理者のパスワードを設定 (Set password for user admin)	管理者ユーザーの新しいパスワードを設定します。 (注) アプライアンスへのログインに同じパスワードを使用するため、このパスワードを忘れないようにしてください。

プロパティ	説明
IP 割り当てを選択 (Choose IP Assignment)	<p>スタティック IP 割り当ての場合は S、DHCP の場合は D を入力します。</p> <p>IP あり当てに DHCP を選択することで、静的 IP アドレスを使用しないように、アプライアンスが同じネットワーク上で実行されている DHCP サーバーから IP アドレスを取得できるようにします。</p>
IP アドレス (IP Address)	<p>ノードの IPv4 アドレスを入力します。例：10.0.0.100</p> <p>(注) アプライアンスを機能させるには、IPv4 アドレスを設定する必要があります。</p> <p>IPv4 アドレスを使用したアプライアンスの初期インストールと展開の完了後に IPv6 アドレスを設定することをお勧めします。</p>
サブネット マスク (Subnet Mask)	IP ネットマスクを入力します。255.255.255.0 などです。
デフォルト ゲートウェイ (Default Gateway)	IP のデフォルト ゲートウェイを入力します。例：10.0.1.254
DNS サーバ (DNS Servers)	DNS サーバーのカンマ区切りの IP アドレスのリストを入力します。最大2つの DNS サーバーがサポートされます。
ドメイン (DNS Domain)	DNS 検索ドメインを入力します。
NTP サーバ (NTP Servers)	<p>スタティック IP を設定するときに NTP 情報を入力します。</p> <p>NTP サーバーのカンマ区切りの IP アドレスのリストを入力します。最大3台の NTP サーバーを追加できます。</p> <p>IP 割り当てに選択した DHCP を設定した場合は、NTP 情報を提供できません。</p>

注目 アプライアンス登録時に設定したパスワードが脆弱である場合、Interswitch はパスワードをより強力なものに変更するように要求します。強力なパスワードに正常にリセットされると、アプライアンスに直接ログインします。ログ方法の詳細については、[Intersight 仮想アプライアンスにログイン](#) を参照してください。

DHCP のイネーブル化

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用すると、Cisco Intersight 仮想アプライアンス VM は、インストールされているネットワーク上で実行されている DHCP サーバーを介して、IP アドレスを取得

できます。このオプションが有効になっている場合、Cisco Intersight 仮想アプライアンスはリース要件に従って、DHCP を介して IP アドレスの更新を処理するように設定されています。

注目 シングルノードアプライアンスのため、DHCP の使用するために次の要件が満たされていることを確認します：

- DHCP を使用する場合は、アプライアンス VM に返された IP アドレスが、アプライアンスの設定に使用するのと同じ FQDN に対して解決されることを確認します。Cisco では、アプライアンス VM に対して同じ IP アドレスを返すように DHCP を設定し、IP アドレスを頻繁に変更しないことを推奨しています。
- アプライアンスは、DHCP リース情報から IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、および DNS サーバーのみを読み取ります。静的 IP を設定する場合は、KVM ハイパーバイザの NTP 情報を VMM コンソールに入力する必要があります。
- アプライアンス VM で使用されるすべての IP アドレスは、割り当てられた初期 IP アドレスと同じサブネット内にある必要があります。たとえば、別の DHCP サーバーを持つ vSwitch に接続して、VM に異なるサブネットからの IP を割り当てることはできません。

制限事項

- 強制リースの更新は、VM の設定に影響を与える可能性があり、アプライアンスを使用できなくなる可能性があります。

ステップ 13 <<https://fqdn-of-your-appliance>> に進み、アプライアンスのインストール後のセットアップを完了します。アプライアンスの設定を完了する方法については、「[Intersight 仮想アプライアンスの設定](#)」を参照してください。

トラブルシューティング ヒント：パスワードおよび IP プロパティ パラメータを指定した後、約 15 分後に <<https://fqdn-of-your-appliance>> にアクセスしたときに VM が応答しないことに気づいた場合は、Intersight アプライアンス メンテナンス シェルを使用して、ネットワーキングまたは設定ミスの問題をトラブルシューティングすることができます。

診断ツールの目的は次のとおりです。

- インストールの前提条件に関する問題を検出して表示します。
- アプライアンス イメージの展開時に提供される入力の実行を有効にします。
- 設定を修正した後、またはアプライアンス イメージの展開時に IP アドレス、サブネットマスク、デフォルト ゲートウェイなどのネットワーク インターフェイスのプロパティを設定した後、インストールを続行できるようにします。

詳細については、[Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のメンテナンスシェル](#)を参照してください。

Intersight 仮想アプライアンス インストールおよびトラブルシューティングのデモンストレーションについては、『[Cisco Intersight アプライアンスおよびデバッグ](#)』をご確認ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。